

# 角膜潰瘍とは

眼球表面の角膜に何らかの原因で傷が入ることを言います。

初期の内から適切に治療をしないと、痛みから自分でさらに目を掻いてしまったりして傷が深まり、角膜穿孔を起こす危険性があります。

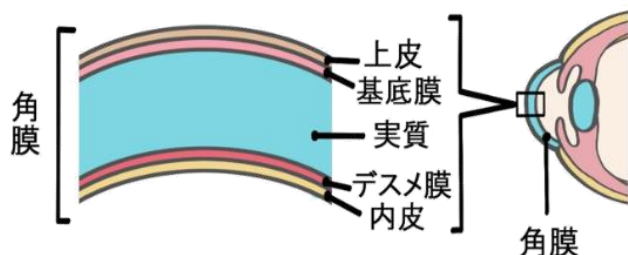
さらにはSCCEDs(スケッズ)といって、角膜上皮と角膜実質の間の細胞の接着が弱いことによる再発性、難治性の角膜潰瘍になることもあります。

## 《症状》

- 目を開けられない
- 涙が多い
- 結膜の腫れ 等

## 《診断》

フルオレセイン染色と言う、傷のある所に付着する染料を使って検査します。



## 《治療》

### ◆ 点眼薬

抗菌剤や角膜保護の点眼薬で目を守りながら修復を待ちます。

角膜保護のヒアルロン酸点眼は1日に何度も(6回以上)点眼する必要があります。

傷が深い場合などは角膜に修復用の栄養を与えるために自己血清(自分の血液から血清を作成し、点眼する方法)が選択される場合があります。

アレルギー性結膜炎などでステロイド入りの点眼を常用している場合は、潰瘍をさらに深くしてしまうため速やかに休止してください。

### ◆ エリザベスカラー

自分で目を掻かないようにエリザベスカラーを装着します。

鼻先が出ないサイズ以上でないと掻いてしまう危険性があります。また、カラーを外してしまうとちょっとした隙に掻いてしまうことがありますので、原則寝る時やご飯の時も装着してもらいます。

### ◆ 外科処置

難治性や傷が深い場合に選択されます。

- 眼瞼を一部縫い合わせることで潰瘍部を覆う。
- 第三眼瞼(瞬膜)で潰瘍部を覆う
- デブリードマン(角膜の修復の妨げになる剥がれた角膜を除去する)
- 格子状切開(角膜表面にあえて浅い傷をつけて修復を促す)

などを行います。

手術後もエリザベスカラーは着用してもらい、縫合部の隙間から点眼をする必要があります。